



登米地域の稲作通信 第6号

令和4年7月13日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127

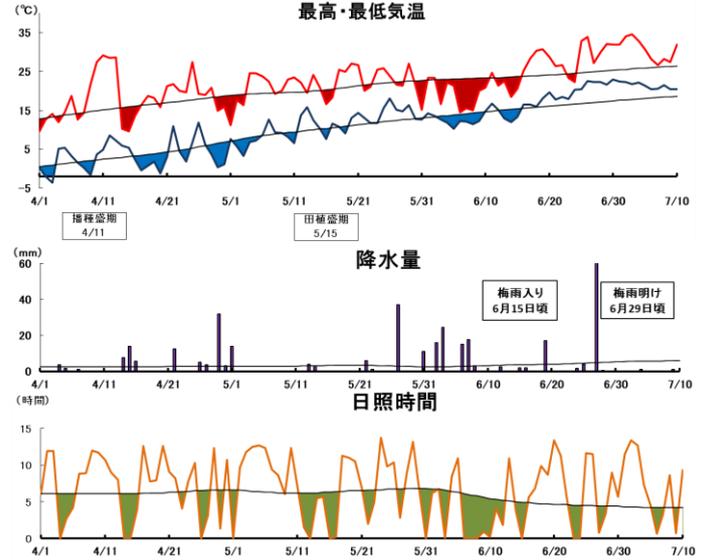


<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

【気象経過】

7月上旬の平均気温は 25.2℃ (平年差+3.8℃)、日照時間は平年の 179% となり、高温・多照で推移しました。降水はほぼ無く、平年の3%でした。

観測地点：米山アメダス



【移植栽培】

1 生育状況

【水稻生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	田植月日 (平年差)	栽植密度 (株/㎡)		7月1日			7月11日			
							草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	南方町	5月18日 (+3日)	15.0	前年比・差 104% 107%	52.5	437	44.1	68.9	446	38.0	0.0
							104%	94%	4.4	118%	102%	-0.6	-1.0
2	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	5月14日 (-4日)	15.9	前年比・差 99% 112%	50.0	426	44.8	64.5	509	41.0	0.0
							99%	90%	3.1	106%	98%	-1.4	-0.9
3	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	5月21日 (+3日)	16.3	前年比・差 96% 107%	46.0	414	46.2	65.5	553	42.2	0.0
							96%	87%	4.8	117%	117%	1.9	-1.1
4	ササニシキ (復活ササニシキ)	Cタイプ	豊里町	5月12日 (+1日)	16.0	前年比・差 91% 100%	47.5	317	42.5	61.1	432	39.8	0.1
							91%	56%	3.4	106%	79%	3.5	-0.1
5	だて正夢	-	迫町	5月17日 (+4日)	21.5	前年比・差 95% 100%	54.6	471	43.9	71.6	449	37.2	0.2
							95%	94%	3.6	111%	94%	0.8	-0.7
6	金のいぶき	-	登米町	5月15日	16.2	前年比・差 93% 88%	51.6	606	43.6	73.1	598	38.6	0.1
							93%	88%	2.8	113%	95%	-0.4	0.1

※栽培タイプ

Cタイプ：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農業8成分，化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は，過去5か年（平成29年～令和3年）の平均値。

※金のいぶきは調査2年目のため，前年比のみ

7月11日現在，ひとめぼれの草丈は3ほ場で平年を上回っており，茎数は2ほ場で平年並から多く，葉色は2ほ場でほぼ平年並となっています。幼穂はすべてのほ場で確認できませんでした。

だて正夢は茎数，葉色が平年を下回っています。幼穂長は0.2mmで，平年より伸長が遅れています。

2 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

生育ステージの予測値(7月11日現在)

移植日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日	5月30日
幼穂形成期	7/2~7/7	7/4~7/8	7/7~7/11	7/11~7/14	7/13~7/17	7/17~7/21	7/22~7/26
出穂期	7/28~8/2	7/30~8/3	8/2~8/6	8/6~8/8	8/8~8/11	8/11~8/14	8/15~8/19

※主稈葉齢予測モデル(普及に移す技術第80号)を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉~3.5葉として予測。平均気温は7月10日までの米山アメダスの実測値。

管内の田植盛期は5月15日頃ですので、出穂期のピークは8月6日頃になる見通しです。

※管内の過去5か年平均の出穂期は8月1日頃です。

発育過程		出穂前日数	幼穂長	葉耳間長
幼穂形成始期		25日前	1~2mm	
減数分裂期	始期	15日前	3~4cm	-10cm
	終期	10日前	8~10cm	±0cm

👉 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

(2) 水管理

幼穂形成期に達したら、中干しを終了し間断かん水を行い、根に酸素と水分を与えましょう。

ただし、日平均気温20℃以下が数日続く場合や最低気温が17℃以下となる場合は、障害不稔が発生する危険性が高くなりますので、水深10cm以上に湛水して幼穂を保温し被害の回避に努めてください。

(3) 追肥

本年のアメダス(米山)の3、4月積算降水量は162.5mmと平年より多く、乾土効果の影響は小さく、土壌窒素発現は平年並みと見込まれます。

表 追肥時期別施肥量

	幼穂形成期(出穂25~20日前) <幼穂長:1~2mm>		減数分裂期(出穂15~10日前) <幼穂長:3~12cm>	
	窒素成分量	現物量 (NK化成C68号の場合)	窒素成分量	現物量 (NK化成C68号の場合)
ひとめぼれ,金のいぶき	1.0kg/10a	6.3kg/10a	1.0kg/10a	6.3kg/10a
ササニシキ	—	—	1.0~1.5kg/10a	6.3~9.4kg/10a
だて正夢	—	—	2.0kg/10a	12.5kg/10a
つや姫	2.0kg/10a	12.5kg/10a	—	—

幼穂形成期追肥は下位節間の伸長につながりますので、草丈が長い場合は、幼穂形成期追肥を避け、減数分裂期に追肥しましょう。

環境保全米では、栽培期間中(育苗+本田)に使用できる化学肥料の窒素成分量が決まっています(合計3.5kg/10a)ので、これまでの施肥量を計算して追肥量を決定しましょう。

表 追肥の目安

肥料	窒素成分含有率(%)	有機窒素の割合(%)	施用時期	施用現物量(化学肥料窒素成分量)
環境保全米有機入肥料 ヘルシーライス有機2号	8.0	56	有効茎確保期(出穂35~40日前)	20kg/10a (0.7kg/10a)
NK化成C68号	16.0	0	減数分裂期(出穂10~15日前)	6.25kg/10a (1.0kg/10a)

(4) いもち病対策

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM 令和4年度)

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
6/16	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/17	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/18	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/19	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/20	△	△	△	●	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/21	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/22	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/23	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/24	○	△	●	●	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/25	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/26	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/27	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/28	△	●	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/29	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
6/30	●	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
7/1	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
7/2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
7/3	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
7/4	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
7/5	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
7/6	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
7/7	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上、平均気温15~25℃、前5日間の平均気温20~25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが、前5日間の平均気温が条件から外れている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
—	好適条件なし	
?	判定不能	

県病害虫防除所の巡回調査によると、いもち病の発病状況については平年並で、県南部で本田での発病が確認されています。

特に、葉色の濃いほ場は葉いもちの発生に注意しましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください(環境保全米Cタイプで発生がみられた場合はJAにご相談ください)。

(5) 紋枯病対策

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。要防除水準(収量が5%以上の減収を想定して防除する場合は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%、「ササニシキ」で10%です(環境保全米Cタイプで防除を検討する場合は、JAまでご相談ください。))。

防除時期：出穂直前(穂ばらみ期 7月下旬)

(6) 斑点米カメムシ類の防除

イネ科雑草(特にイタリアンライグラス等)の多い畦畔では、斑点米カメムシ類が誘引されて産卵・繁殖する場所となり、斑点米被害につながる可能性が高くなります。計画的に畦畔の除草を行いましょう。

ただし、出穂期前後の草刈りは水田内に斑点米カメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔草刈りは水稻の**出穂10日前まで**に終了するようにしましょう。

○県病害虫防除所では、メールマガジンのサービスを開始しました。登録されたメールアドレス宛てに、病害虫の発生予報や警報・注意報の情報を配信します。登録は無料ですので、是非ご登録ください。

宮城県病害虫防除所 HP：[病害虫防除所 - 宮城県公式ウェブサイト \(pref.miyagi.jp\)](http://pref.miyagi.jp)

【直播栽培】

1 生育状況

【水稲生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日		7月1日			7月11日		
						草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色 (GM)
1	ひとめぼれ	フタコ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	5月5日	前年比・差 平年比・差	45.0	378	39.4	55.8	514	37.7
						114%	83%	6.3	107%	110%	2.4
						102%	66%	0.3	96%	92%	1.5
2	ササニシキ	フタコ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	4月26日	前年比・差	41.3	326	36.6	52.7	503	37.6
						99%	77%	-2.3	99%	109%	-3.1
3	つきあかり	フタコ耕 グレンドリル 体系	豊里町 (鍋波)	4月26日	前年比・差	46.7	263	40.5	66.0	381	39.4
						82%	54%	4.0	100%	75%	0.5

※平年値は、N0.1 ひとめぼれは過去5か年(平成29年~令和3年)の平均値。

※N0.2~No.3は調査2年目なので前年比のみ。

7月11日現在、ひとめぼれは分けつが進み、茎数は平年比92%の514本/m²となっています。

ササニシキは、草丈は前年並、茎数は多く、葉色は淡くなっています。つきあかりは、茎数は前年の75%、草丈、葉色は前年並となっています。

2 今後の管理

(1) いもち病対策 ~天候や品種によっては多発が予想されます。発生に注意!!!~

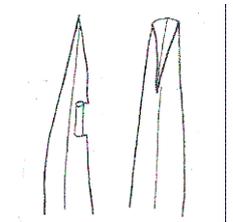
いもち病に感染しやすい天候が数日続く予報となっています。7月下旬にコラトップ粒剤等を施用し、穂いもちを予防しましょう。

(2) イネツトムシ(イチモンジセセリ)

防除適期：第2世代若齢幼虫発生盛期(7月下旬~8月上旬)

株当たり0.5個以上のツトが見られる場合は防除を行いましょう。

防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。



図：若齢幼虫の形成するツト



(3) 追肥

基肥一発肥料を施肥していても急激に葉色が淡くなってきた場合は、減数分裂期追肥を行いましょう。

表 追肥の目安

肥料	窒素成分含有率 (%)	施用時期	施用現物量 (化学肥料窒素分量)
NK化成C68号	16.0	減数分裂期(出穂10~15日前)	10kg/10a (1.6kg/10a)

6月~8月は「農薬危害防止運動」期間です。農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。